



6	2節 植生の遷移 A 植生の遷移 B ギャップ更新 C 二次遷移	1	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解することができる。 ・二次遷移について、一次遷移との違いに注目して理解することができる。	・遷移の進行と光合成の関係について理解することができる。 ・ギャップ更新が起こらないときの極相林について考えることができる。	たり、評価・改善したりしようとしている。
	3節 遷移とバイオーム A 遷移とバイオーム B 日本のバイオーム	1	・標高が高い所では森林が形成されないことから、環境によって遷移の結果が異なることに気づくことができる。 ・地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることに気づくことができる。	・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知ることができる。 ・日本のバイオームについて、遷移と関連付けて整理、理解することができる。 ・系統と系統樹について理解することができる。	
1	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 1節 生物の多様性 A 進化と系統 B 進化の証拠と相同	1	・相同器官を比較し、共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを見いだすことができる。	・生物の種と分類・系統について理解を深めることができる。	
	2節 生物の共通性 A 生物の特徴	1	・生物の基本的な特徴を理解することができる。	・ウイルスが非生物として扱われている理由を理解することができる。	
2/3	3節 細胞の特徴 A 真核細胞の構造 B 原核細胞の構造 C 細胞の共通性 D さまざまな細胞	2	・真核細胞の構造について理解することができる。 ・原核細胞の構造について理解することができる。	・原核細胞、動物の真核細胞、植物の真核細胞の構造を比較し、共通性について考えることができる。 ・さまざまな細胞とその大きさについて理解することができる。	
	2章 生物とエネルギー 1節 生体とATP A 生命活動とエネルギー B ATPの構造 C代謝	1	・生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づくことができる。 ・ATPの構造が、アデノシンに、3つのリン酸が結合した物質であることを理解することができる。	・ATPが呼吸や光合成などの生体内でのエネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解することができる。 ・同化や異化の代謝の過程で生じるエネルギーの授受にATPが利用されていることを理解することができる。	
2/3	2節 生体内の化学反応 A 酵素	1	・酵素の基本的な特徴を理解することができる。 ・酵素の基質特異性が何によってもたらされているのかについて理解することができる。	・酵素の主成分がタンパク質であることから、最適温度と最適pHという性質が生じることを知ることができる。	
	3節 呼吸と光合成 A 呼吸 B光合成	2	・呼吸におけるグルコースの分解反応の概要とATPの合成について理解することができる。 ・光合成の場である葉緑体の構造について理解することができる。 ・チラコイドでは、光エネルギーを利用してATPが合成されることを理解することができる。	・呼吸と燃焼の違いを理解することができる。 ・呼吸のおもな場となるミトコンドリアの構造について理解することができる。 ・光合成が、チラコイドで行われる反応とstromaで行われる反応からなることを理解することができる。	
	学年末考査	評価方法	【10】(知識・技能)(思考・判断・表現)：中間考査で平均点SS±5を原則Bの基準とする。それ以上はA, 以下はC(主体的態度)：授業・教材への取り組みをみる。		

